

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第 322号

令和 8 年 5 月 8 日  
瀬戸市立幡山中学校



## 時を越えるトンネル、未来へ「出発、進行！」

### — 歴史と自然に学ぶ共生のかたち—

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

5月5日は「こどもの日」、そして暦の上では立夏。いよいよ夏の気配が感じられる季節となりました。皆さん、ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか。子どもたちは部活動の大会があったり、中間テストを控えていたり、連休とはいえ忙しい日々を過ごしていたと思います。それでも、しばらく学校から離れることで、気持ちをリフレッシュできたのではないのでしょうか。

私も同じく、連休中にJR中央線・定光寺駅近くにある、日本三大廃線トンネル群の一つ「愛岐トンネル群」を訪れました。ここは1900(明治33)年に国鉄中央線の名古屋～多治見間が開通し、1966(昭和41)年まで蒸気機関車が走っていた区間です。その後、複線化と電化に伴い新たな線路が敷設され、高蔵寺～多治見間の約8キロが廃線となりました。そして、13基のトンネルは長い年月の中で人々の記憶から薄れ、深い藪の中に埋もれていきました。

40年もの間眠っていたこのトンネル群が再び姿を現したのは、2005(平成17)年。地元の方のわずかな記憶を頼りに保存再生委員会が結成され、探索が始まったことがきっかけでした。現在は春と秋の年2回公開され、2016年には文化庁の「登録有形文化財」に認定されるなど、貴重な文化遺産として大切に守られています。

訪れた日は雨上がりの快晴で、日陰は少し肌寒いものの、歩くと汗ばむほどの陽気でした。普段は静かな無人駅である定光寺駅も、多くの来訪者で賑わっていました。列車であれば一瞬で通り過ぎてしまうトンネルを、灯りのない中、ライトだけを頼りにゆっくり歩くと、五感が研ぎ澄まされ、気温15度のひんやりとした空気、天井から落ちる地下水の音、砂利を踏みしめる足音が鮮明に感じられました。レンガの壁に刻まれた染みを見上げると、100年以上前にこの工事に携わった人々の苦労や思いが伝わってくるようでした。



また、歴史ロマンあふれるレンガ造りのトンネルを後世に残すため、保存会の皆さんが「自然との共生」を大切にされている姿にも心を打たれました。過度に観光地化せず、最低限の安全性を確保した散策路。むやみに木を伐採せず、豊かな森をそのまま残す姿勢。特にこの時期は「青もみじ」が太陽の光を受けて輝き、庄内川の渓谷と相まって本当に美しい景観でした。往復3.4キロの道のりを初夏の新緑の中で歩き、心身ともに爽快な時間となりました。

今年度の本校の重点目標の一つである「多文化共生」や「多様性」は、人と人との関わりだけでなく、自然や歴史とのつながりにも広がっていくのだと、今回の訪問を通して改めて感じました。そして、それらは自然に生まれるものではなく、人々の熱い思いや行動によって支えられていることにも気付かされました。

言葉を掲げるだけでなく、実現のために何をどう行うのか。トンネル内で鳴り響く蒸気機関車の汽笛を思い浮かべながら、いよいよ本格的に令和8年度の幡山中が力強く動き出します。「出発、進行！」

# 幡中

《幡山地区 小中一貫教育》 めざす子ども像  
思いやりのある子 たくましく生きる子 地域に貢献できる子

【校訓】 誠実 勤労 健康

【学校教育目標】 「人としての生き方を身につけ、国家・社会の担い手として、誇りと責任を自覚し、心身ともに健康でたくましく生きぬく生徒を育てる」



正解のない時代を  
生き抜く力

【今年度の重点方針】  
人生のハンドルを自ら握り、仲間と共に、  
夢中で未来に挑む生徒を育てる



幸せにまなび、  
幸せに生きる

1. 自律 — 自分で決める、自分で動く(セルフコントロール)
2. 尊重 — 互いを認め、共に高めあう(リスペクト)
3. 夢中 — 果敢に挑み、やり抜く(エンゲージメント)

## 確かな学力

- ① 探究的な学びの実現に向けた学習過程の工夫
- ② 基礎基本を土台とする「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
- ③ 主体的・対話的で深い学びのある授業設計
- ④ ICT 機器を効果的に活用した授業づくりの推進
- ⑤ 自律的学習者を育てる学習習慣の確立

## 豊かな心

- ① 特別の教科道徳を要に全教育活動で心の教育を推進
- ② 主体的・自治的に取り組む生徒会活動・学校行事の充実
- ③ 異文化を尊重し、多様性を認め合う教育の推進
- ④ 地域に心を寄せ、ふるさとへの想いを育む場づくり
- ⑤ 「生き方の探究」をテーマにした「キャリア教育」
- ⑥ 生徒一人ひとりを大切にしたい居場所づくり

## 健やかな体

- ① 望ましい生活習慣や食習慣に関する教育の充実
- ② 自他の心身の成長発達についての正しい理解
- ③ 体力の向上を図る実践力の育成
- ④ 防災・安全やメディア(情報モラル)に関する正しい判断、行動
- ⑤ 合理的で効率的な部活動の実施

◆ハタトーク  
("かかわる力"育成プログラム)

◆ポジティブ行動支援〔PBS〕  
(生徒と教師の笑顔が輝くアプローチ)

### 子どもたちの学びがつながる 小中一貫教育

- ・小中間の相互理解による、系統性のある学習・生徒指導
- ・教職員による乗り入れ授業や相互参観
- ・自己有用感の高揚を図る「縦割り活動」
- ・CS を活用した交流活動

### 自分を見つめ他と豊かに関わる いのちとこころの教育

- ・いじめ・不登校の未然防止、早期発見、解決に積極的に努める
- ・学級集団アセスメント Q U 等客観的資料を活用した生徒理解と学級経営改善
- ・SC、SSWer、SL や外部機関との連携
- ・レジリエンスを支えるセルフエスティーム(自己尊重感・自己有能感)を高めるためのアプローチの推進

### 高めあうことができる 教職員集団

- ・授業力向上の研鑽に努める
- ・「みること」を意識し、実態・現状を的確に把握する
- ・お互いの強みを理解し、支え合う「チーム幡山」
- ・教職員の業務量管理及び健康確保については、市教育委員会の方針を踏まえ、学校全体で取組を進める。

## コミュニティ・スクール～地域とともにある学校づくり

協働

- ◆ 学校運営協議会
- ◆ 幡山サポートセンター
- ◆ PTA、自治会等
- ◆ 各種ボランティアの募集

発信

- ◆ はたさんち通信
- ◆ 学校だより「あやめ」
- ◆ ホームページ
- ◆ 学校公開日等